

令和4年度認知症施策について

1、平塚市の認知症支援事業

「平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第8期〕）」において、「認知機能検査の実施」と「チームオレンジの体制整備」を重点事業として掲げています。本市の認知症施策を推進していくにあたり「住み慣れた地域で安心のある生活」を目指して、以下の認知症支援事業を令和4年度に実施いたしました。

(1) 認知症理解のための普及・啓発

・市民への普及啓発・本人発信の支援

認知症に対する理解促進と認知症御本人からの情報発信の支援として、若年性アルツハイマー型認知症と診断された当事者であり、おれんじドア代表の丹野智文氏による講演「認知症と共にあゆむ～当事者からのメッセージ～」を開催しました。

講演では、自身が自分らしく生きるということ、自身が当事者支援をする中で大切にしていること等を、若年性認知症支援コーディネーターである曾我病院の田中香枝氏との対談により伝えました。また、希望者に講師による個別相談2件を実施しました。

市民公開講座 100人定員予約制、参加者118人

9月19日（月曜日・祝日） 平塚プレジール（平塚駅南口）



講師 丹野智文氏



対談の様子

・アルツハイマー月間啓発事業 第6回「みんなで知ろう！認知症」

9月の世界アルツハイマー月間に合わせて、認知症について広く市民に理解してもらうための普及啓発活動を実施しました。

- ①パネル展示（平塚市役所）：9月12日（月）～9月22日（木）
- ②平塚駅南口噴水ライトアップ（平塚駅南口広場）：9月1日（木）～9月21日（水）
- ③普及啓発街頭キャンペーン（平塚駅北口周辺）：9月21日（火）
- ④湘南ベルマーレホームゲームイベントでの普及啓発（平塚総合公園）：9月3日（土）
- ⑤認知症関連の本の紹介展示（平塚市中央図書館）：9月1日（木）～9月29日（木）



①パネル展示の様子



③普及啓発街頭キャンペーン



④湘南バルマーレイアウトの様子

・認知症について広く市民に知ってもらうためのパネル展示

令和5年3月8日（水）～21日（火）に平塚市中央図書館1階ロビーにて開催

・認知症サポーター養成講座

認知症の人やその家族の応援者である認知症サポーターを養成し、認知症への理解の普及促進を行い、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

認知症サポーター養成講座は地域住民や教員、児童や生徒などを対象に公民館や学校等で開催しています。

令和5年1月末現在 開催数：60回 受講者数：1,538人

（受講者内訳）

一般の市民の方：224人 小・中学校や学童、専門学校の学生：1,098人

企業等の従業員、従事者：109人（6企業・事業所に対して実施）

行政職員：107人

認知症サポーターの延べ人数：27,066人

・チームオレンジ研修

市内13か所の高齢者よろず相談センターが主体となり、認知症サポーター養成講座修了者に対して「認知症の人ができるかぎり住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」の担い手であるチームオレンジメンバーを養成する研修を行っています。チームオレンジ研修修了者にはチームオレンジメンバーとして、認知症カフェの立ち上げや運営の手伝い、福祉村などの地域の団体でボランティア活動をお願いしています。

令和5年1月末現在 チームオレンジ研修開催数：9回 受講者：57人

・VR認知症体験会

チームオレンジメンバーを対象に、認知症への偏見をなくし、認知症を自分事としてとらえ、認知症の人や家族への接し方や寄り添い方について考えて、普段の活動に生かしていただくことを目的にヴァーチャルリアリティにて認知症の諸症状を体験します。

令和5年3月8日（水）午後及び3月9日（木）午前・午後の3回開催予定です。

平塚市教育会館 130人定員予約制、参加者110人予定。



認知症サポーター養成講座の様子



VR認知症体験会の様子

(2) 認知症予防施策の充実

・脳とからだの体操リーダー養成講座

認知症予防をめざした運動プログラム「コグニサイズ」を実際に体験しながら学び、お住まいの地域で広めていただく方を養成します。「コグニサイズ」とは、国立長寿医療研究センターが開発した体操で、息が上がるくらいの歩行や足踏みに、脳を刺激する課題（計算やしりとりなど）を一緒に行うものです。

講座実施回数：6回（1クール3日間の講座） 受講者数：21人

・脳いきいき講座

認知機能低下予防に効果的と言われている脳とからだの体操「コグニサイズ」の習慣化を目的とした1クール3か月間、全12回の講座です。

株式会社神奈中スポーツデザインに委託して開催

令和4年度の受講者数：12人（前期8人、後期4人）

感染症対策を行い、利用定員を最大10名と制限して開催しています。

・認知症予防教室

認知症に関する正しい知識と認知症になるリスクを減らした生活スタイルを学び、認知症になっても安心して生活ができるように認知症に対する対応策を学ぶ教室です。

感染症対策として、会場を屋外に変更し、活動を継続できるよう工夫している地域もあります。

令和5年1月末現在 高齢者よろず相談センター主催：11回、参加者数：156人

地域から依頼の教室：59回、参加者数：881人



脳とからだの体操リーダー養成講座の様子



脳いきいき講座の様子



屋外での認知症予防教室の様子

(3) 認知症に対する早期対応体制の整備

・認知症の人と家族への一体的支援プログラム推進事業

認知症の人とその家族が、より良い関係性を保ちつつ、希望する在宅生活を継続できるよう、公共スペースや既存施設等を活用して本人と家族が共に活動する時間と場所を設け、本人支援、家族支援及び一体的支援からなる一連のプログラムを実施することにより、本人の意欲向上及び家族の介護負担感の軽減と家族関係の再構築を図ることができるプログラムに取り組む法人及び団体を支援することを目的とした事業です。

「平塚市認知症の人と家族への一体的支援プログラム実施に関する補助金交付要綱」に基づき、このプログラムに取り組む法人及び団体への、運営にかかる費用の一部助成を令和4年度後期より開始しました。

令和5年1月末現在の申請団体数：2件

一般社団法人 栄樹庵 SHIGETA ハウスプロジェクト（ミーティングセンター 平塚カフェ）

一般社団法人 日本音楽医療福祉協会（ミーティングセンター 音楽ひろば）

・若年性認知症を含めた相談支援

令和4年度は令和5年1月末現在までに市内の各よろず相談センターで受けた認知症に関する相談は総数で4,435件。1つのよろず相談センターで1月あたり約28件の相談を受けていることとなります。（継続相談を含む延べ件数）

・認知症初期集中支援事業

認知症初期集中支援チームは平成29年4月に設置され、原則として40歳以上の在宅の認知症の人又は認知症が疑われる人及びその家族に対して、必要に応じて訪問や相談、指導、助言を行い、適切な機関へのつなぎや情報収集及び観察・評価、継続的なモニタリング等を行います。

令和4年度より 医療法人社団彰耀会 メモリーケアクリニック湘南に委託

令和4年度は令和5年1月末現在で、高齢者よろず相談センター全体で8件の相談があり、うち5件を認知症初期集中支援事業の対象者と選定いたしました。また、令和4年度（令和5年1月末）までに支援を終了した対象者は6件となります。（令和3年度から継続ケース4件、令和4年度のケース2件）

・「物忘れ相談プログラム」による簡易認知機能検査

日本認知症予防学会も会員対象にレンタルを行っている、鳥取大学医学部の浦上克哉教授が開発した「物忘れ相談プログラム」を実装した簡易認知機能検査機器（タブレット端末）を13全ての高齢者よろず相談センターに各1台導入し、認知症地域支援推進員等のよろず相談センター職員が訪問相談や、地域のサロン、町内福祉村などで周知を行い、予約制で検査を実施しました。

検査結果により、脳いきいき講座への参加や医療機関への受診勧奨、サロンへの参加を促しました。

令和5年1月末現在の検査実施人数：634人



簡易認知機能検査の様子

(4) 認知症高齢者の見守り支援

・チームオレンジの体制整備

チームオレンジメンバーによる見守りを始めとした認知症の人や家族に対する生活面の支援を行う体制づくり、また、認知症の人や家族もメンバーとして参加してもらえるよう体制づくりを進めていきます。

令和5年1月末現在の活動内容： 認知症カフェや地域サロン開催時の見守り・話し相手
地域サロンの送迎、認知症カフェやサロンの運営協力、
コロナ禍以降に活動を控える参加者への声掛け支援等

・認知症カフェ登録事業

認知症の人やその家族と地域の方が住み慣れた地域で、仲間づくりや生きがい支援、専門職等と相互に情報交換し、安心して集える居場所として広く市民に周知を行います。

令和5年1月末現在の登録認知症カフェ：7カ所

・認知症カフェ登録団体交流会

運営団体各々でやり方等工夫して開催していただいている認知症カフェについて、運営団体同士の交流の場を設け、困っている事や課題の解決につながるような情報交換を行うことで、より良いカフェの開催につなげていただく。また今後の活動の広がりにも期待できるため、団体同士のつながりができることを目的として開催しています。

12月19日（月）開催（平塚市教育会館） 参加団体：7団体（8人）

アドバイザーとして、横須賀市のこいそなんでも福祉相談室管理者の玉井秀直氏を講師に招き、代表を務める認知症カフェ「らんらんカフェ」の運営や認知症啓発イベント等の普及活動について実施状況をお聞きしました。

(5) その他、認知症施策の周知に関する取組み

・知ってあんしん ひらつか認知症ガイドの配布

認知症について知ることをはじめ、認知症の進行や状態に合わせて「いつ」「どこで」「どのような」相談や医療・介護・各種サービスなどを受けることができるのかをまとめたガイドを配布しています。また、令和5年1月に掲載情報を vol. 3 に更新しました。

令和5年1月末現在のガイド vol. 2 配布数：827冊

・織り姫と一緒にやってみよう！ちょい脳トレ体操の DVD 配布

令和3年1月19日から動画配信をしている脳トレ体操をDVD化し、脳とからだの体操リーダーや認知症カフェ団体等、配布を希望する地域活動団体へ配布しました。

平塚市介護予防チャンネルで配信中

配信内容：織り姫とやってみよう！！ちょい脳トレ

令和5年2月22日現在までの累計視聴回数

①指折り体操編	771回
②手と足を同時に動かす体操編	439回
③色文字編	454回



市が作成したDVD

2、課題と対応策

令和5年度に向けて考える課題と対応策は以下のとおりです。

(課題)

令和元年度末から長期にわたるコロナ禍による活動の自粛で、高齢者の社会参加の機会減少が3年近く続きました。日常の活動量の低下とともに、認知機能の低下について不安に思っている人が増えていることが、相談支援の状況からも予測されます。

令和4年度も引き続き、こうした認知機能の低下が疑われる人や不安に思っている人を早期に発見して、適切な相談・支援につなげていくことが課題となっています。

また、一人暮らしや高齢者夫婦世帯が増える中で、家族の介護力の低下、認知症により処遇の困難なケースや介護負担の大きい家族への対応が、相談支援の中で課題となっています。

認知症は、診断された本人と家族双方の生活に大きな影響をもたらします。そこで本人と家族の関係性が悪化してしまわない様にするのが、在宅生活を安定し継続させるためには重要です。これまでは本人と家族に向けた支援はあっても、それぞれへの個別支援に留まり十分ではありませんでした。

(対応策)

高齢者よろず相談センターに導入している簡易認知機能検査機器を積極的に活用して、認知機能の低下や認知症の早期発見、早期対応に努め、受診勧奨や社会参加の場等、個々に必要な情報を提供していきます。

また、認知症初期集中支援事業等での早期診断のルートづくりと並行して、診断直後から本人と家族への一体的支援を行う場を整備し、一体的支援プログラム推進事業を関係機関へ広く周知していくことで、「認知症の本人と家族の気づきにより家族関係の再構築を図る」場づくりとともに、「認知症になっても尊厳と希望を持って、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる」まちづくりにつなげていきます。